

## 認知症施策推進大綱の進捗状況と課題

### 2. 予防

#### (1) 予防に関するエビデンスの収集の促進

##### ① 介護関連データ

(KPI/目標) 介護保険総合データベースや LIFE によりデータを収集・分析し、科学的に自立支援や認知症予防等の効果が裏付けられたサービスを国民に提示

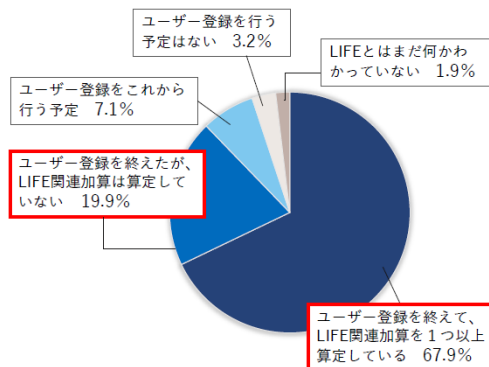
#### 更なる普及啓発と LIFE のデータ項目についての検証が必要

- ・ LIFE への登録施設は増加しているが、今後も引き続き登録施設の増加に向けた普及啓発が必要。
- ・ また、LIFE に集約されたデータがケアに活かされているかの検証が必要。
- ・ 加えて、LIFE に集約するデータ項目が適切かについても検証が必要。

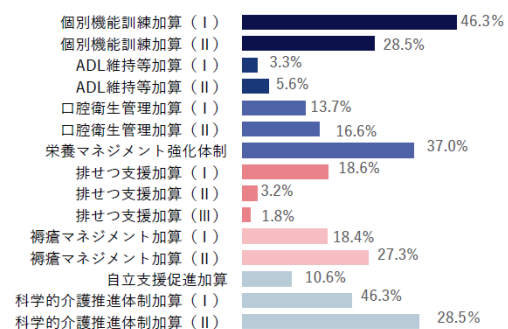
LIFE では認知症の行動・心理症状 (BPSD) の評価を DBD13 により行っているが、この指標は行動症状中心の評価のため、心理症状についての評価ができない。また、認知症が軽度の初期の方の評価には有効であるが、特別養護老人ホームなど重度の方の状態の変化が見えづらいという声がある。

(参考) 全国老施協会員の特養の LIFE 導入状況 (令和4年4月)

◆特養の「LIFEの導入状況」(n=1,806)



◆特養の「加算の算定状況」(n=1,806)



### 3. 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

#### (1) 介護サービス基盤整備・介護人材確保・介護従事者の認知症対応力向上の促進

##### ① 介護人材の確保

(KPI/目標) 人材確保の目標値 (2025 年度末に 245 万人確保)

###### 更なる処遇改善が必要

- ・ 介護職員の処遇改善の水準については、公的価格評価検討委員会の中間報告において、必要な人材が確保されるものとするのが最終的な目標とされており、まずは全産業の従業員の平均額まで引き上げることが必要である。
- ・ そのため今回の加算措置で留まることなく更なる支援措置をお願いしたい。
- ・ なお、介護現場で勤務する介護職員以外の職員の処遇改善にも配慮をお願いしたい。

##### ② 介護従事者の認知症対応力向上

(KPI/目標) 研修受講者数 指導者養成研修：2.8 千人、リーダー研修：5 万人、実践者研修：30 万人、基礎研修：介護に関わる全ての者が受講 (2020 年度末)

###### 認知症研修の受講機会の確保が必要

- ・ 認知症に関する専門性の高い研修へのニーズが高まっているが、現場を持ちながら指導者となる人材の育成はハードルが高く、人材不足により指導者を送り出せる事業者も減っていることから、地域によっては希望しても受講できない場合がある。
- ・ 認知症指導者を含めた各研修事業の実施目標を再周知するなど国から各都道府県・指定都市への助言が必要。

#### (2) 医療・介護の手法の普及・開発

##### ① 行動・心理症状(BPSD)への適切な対応

(KPI/目標) 認知症対応プログラムの開発

###### 介護職員の気づきを高め、誰でも使える共通の指標が必要

- ・ 行動・心理症状 (BPSD) への対応は、介護施設において努力や工夫を重ねてきているが、これまで共通の指標がなく評価もなかった。
- ・ PDCA サイクルのケアが行われる認知症対応プログラム (仮) について、適切な評価をしていただきたい。